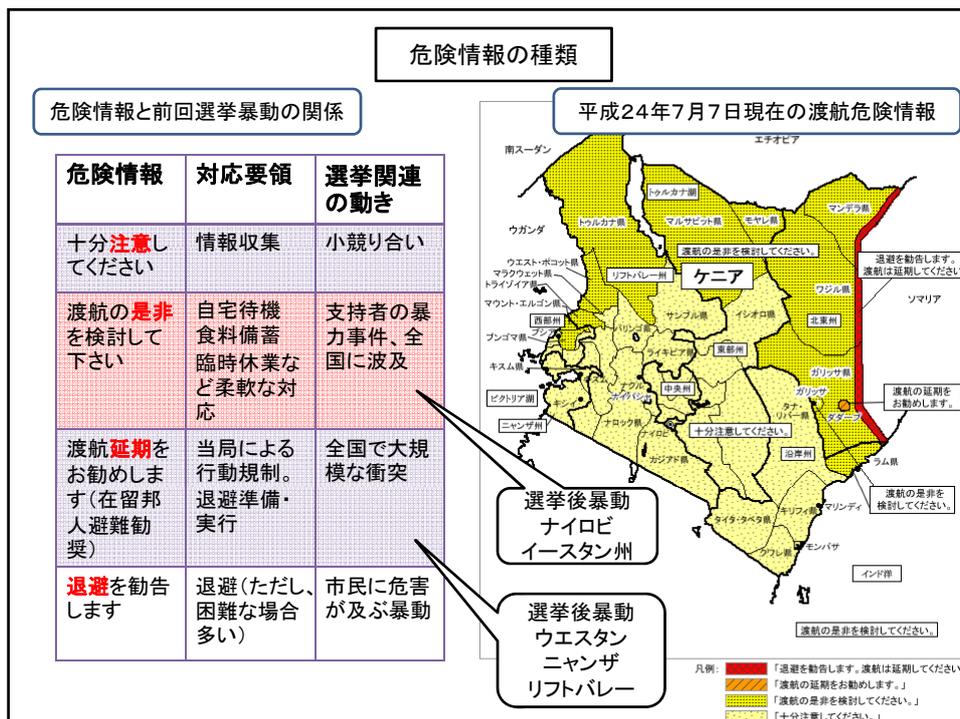


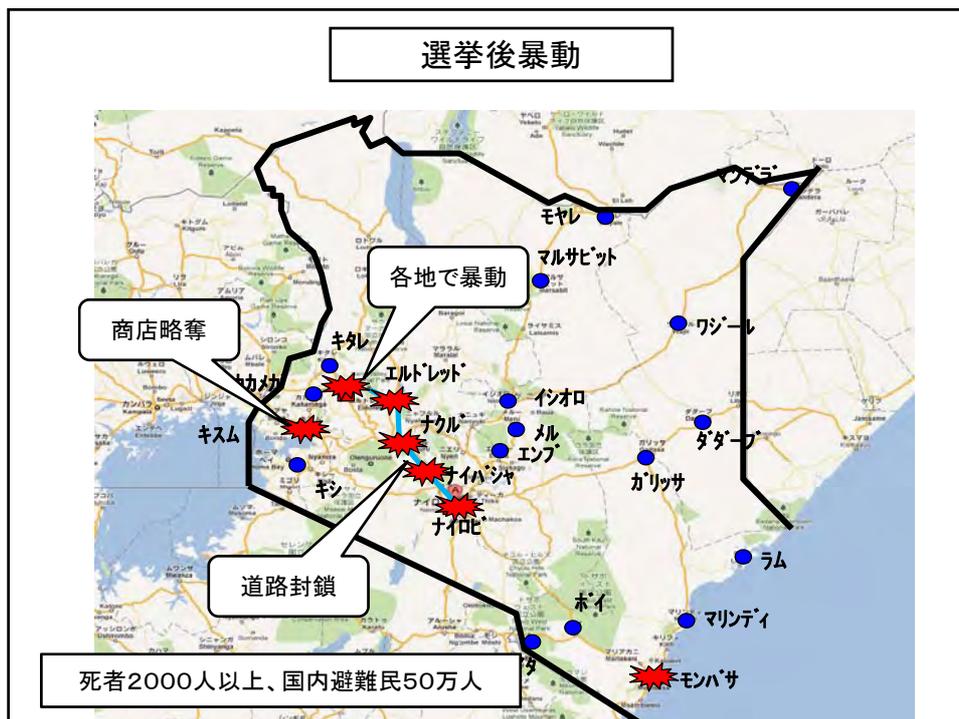
平成24年8月28日改定

総選挙対策

(空白ページ)

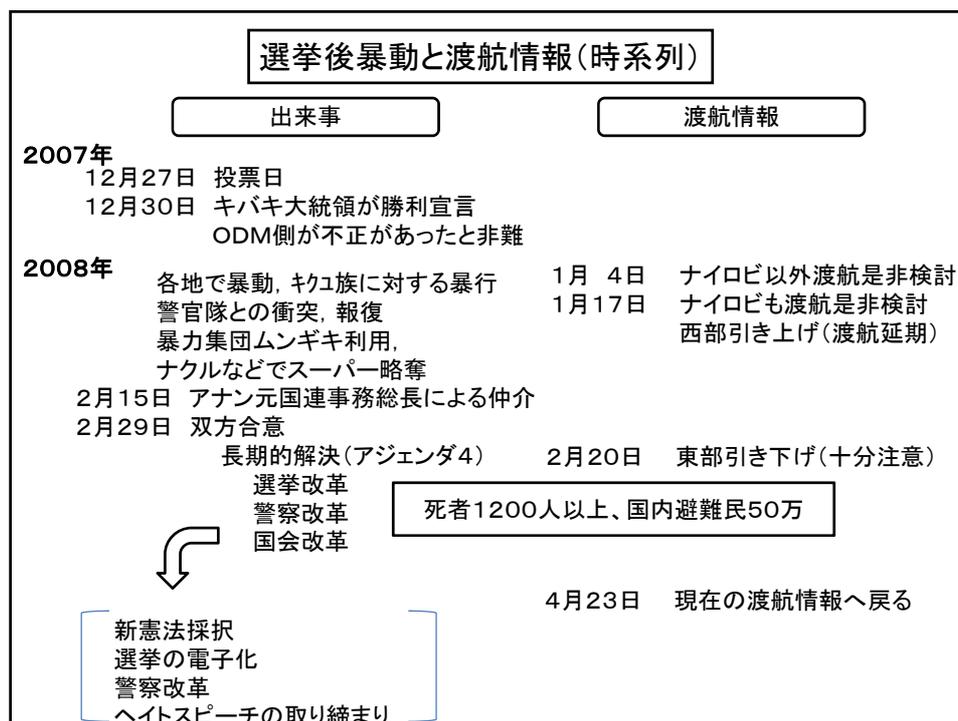


- ### 危険情報の種類【説明】
- 海外安全ホームページには危険情報(「渡航情報」ともいいます)が掲載されており、地域ごとに危険度が色分けして表わされています。
 - 左側の表をご覧ください。危険情報として4段階(これ以下の危険の少ない場合[色は白]を含めると5段階)の区分けがあります。「是非検討」は、渡航をすることの重要性和危険度を考慮し渡航を検討する。しかし「渡航延期」は是非検討したとえ渡航が必要であっても延期をお勧めしますということであるとご理解ください。
 - それぞれのレベルの時の対応要領の一例は表の中列の通りです。
 - 「選挙関連の動き」の列は総選挙等の暴動の際、こういったときにそのレベルになるのかという目安を表しています。
 - 2008年の選挙後暴動の時は、ウエスタン州、ニャンザ州、リフトバレー州は「渡航延期」になりました。大規模な暴動が発生したからです。逃げ遅れて避難できなかった人も発生しました。このレベルは現在のケニアの危険情報に当てはめると、IEDや手榴弾の爆発が起こっているダダーブ難民キャンプのレベルであったと言えます。
 - ナイロビ、イースタンは「是非検討」レベルに上がりました。自宅待機を検討する必要があります。このレベルは現在のケニアに当てはめると、車両強盗が多発し、幹線道路では警察のエスコートを必要とするケニア北部地方のレベルであったと言えます。
 - ここで重要なのは、危険度がある一定の期間を経て変化するというのではないことです。このことは、少なくとも「是非検討」が出るような段階では、次の「渡航延期」を見越した計画を立て早めに避難などの必要な行動をとることが重要であることを表しています。



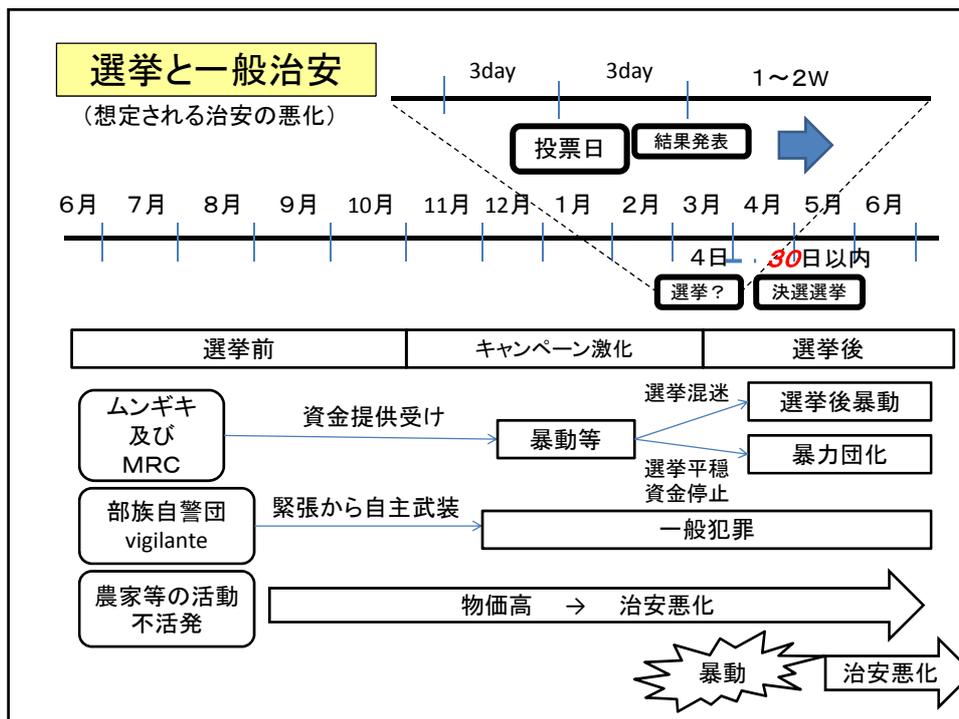
選挙後暴動の概要【説明】

- 2008年の選挙後暴動では、多数部族の中で少数部族が混じる土地で暴動が発生しました。暴動が発生した地域は「ホット・スポット」と呼ばれました。
- 暴動は各都市で起こった他、暴徒が主要幹線を封鎖しました。この時点で陸路によるナイロビへの避難はできなくなりました。
- 空港も人が詰め掛け、飛行機での避難も難しくなりました。
- キスム等では、暴徒がショッピングセンター等を襲い、キスムでは、生活必需品を買えなくなりました。このことから食糧、生活必需品の備蓄などの大切さがわかります。
- 死者は1200人以上、国内避難民は50万人に達しました。
- 一方でナイロビ等では局地的に暴動が起きましたが、ショッピングセンターは1週間後から通常営業していたといえます。
- 前回は当選発表をしたキバキ大統領側に不正があったとして、キクユ族対その他の部族の対立が発生しました。しかし、今年度の選挙では、そのような対立軸は必ずしもないことが予想され、いわゆる暴動の起こりうる地域(ホットスポットになる地域)が、前回の選挙と一致しないことが考えられます。今後情報収集するとともに、あらゆることを想定して、事前に準備する必要があります。



選挙後暴動と渡航情報(時系列)【説明】

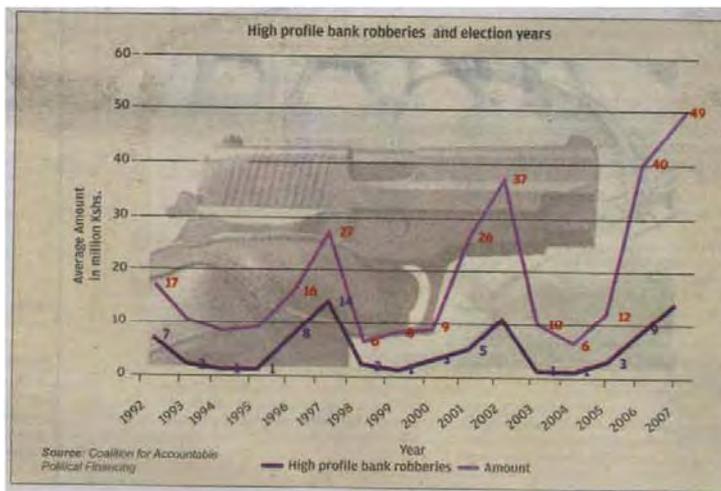
- 資料は2008年の選挙後暴動を時系列で表したもので、左列が起こった出来事、右列が大使館が発表した危険情報(渡航情報)です。
- 投票日の3日後である12月30日、キバキ大統領が勝利宣言をし、ODM(政党)側が不正があったと非難しました。その後、各地に暴動が発生しました。
- 今回の選挙についても、投票日数日後に発表されと考えられます。
- 結果発表5日後の1月4日、大使館はナイロビ以外を「渡航是非検討」としました。
- 1月17日になると、ナイロビも「渡航是非検討」とし、西部地方を「渡航延期」に引き上げました。
- この時期、キクユ族に対する暴動と、その報復として警官などを巻き込んだ暴動が起こっていました。
- 2月15日、アナン元国連事務総長による仲介があり、2月29日、PNUとODMが合意に達し、連立政権樹立に向かい、短期的解決はなされました。
- 現在の渡航情報に近い状況に戻るには、4月23日まで約5カ月を要しました。
- そののち、暴動がおこらないような長期的な解決策(アジェンダ4)が考えられ、選挙改革、警察改革、国会改革などを行うことになりました。この一環として、新憲法の採択や選挙の電子化、警察改革、ヘイトスピーチの取り締まりなど行われています。
- 改革の努力のある一方で、履行も順調でない部分があります。
- このような状況の中、依然として選挙前後に暴動その他が発生することが可能性が排除できないことから、やはり事前の対策・準備が必要となってきます。



選挙と一般治安の関係【説明】

- 選挙がおこなわれる年は治安が悪くなるといわれています。
- 銀行強盗の件数は選挙の年に高くなっているデータが発表されています。
- 選挙がおこなわれるのは、現在2013年3月の可能性が高いといわれています(7月時点)。
- 投票日の後、数日で結果発表があります。前回の選挙ではそのあと暴動が起きました。
- 選挙で過半数を取り、なおかつ半数(全47カウンティ中25)を超えるカウンティ(郡)で25%の得票数を占める候補がない場合には、30日以内に決選投票が行われます。(注:7月7日の安全対策協議会では60日と説明していましたが、訂正いたします)
- 決選投票が行われる場合は、決選投票の前後も状況が大きく変化することが考えられ、その時期に対しても対策を考慮する必要があります。
- 選挙と治安の悪化については次のことが言われています。
 - ムンギキやMRCなどの組織に対して政治家が等が資金を提供し、暴動が発生。
 - 緊張から自主武装する部族自警団がそのまま一般犯罪を行う。
 - 選挙キャンペーンによる経済活動低下のため、治安が悪くなる。

選挙の年と銀行強盗件数との関係 選挙の年→急増



2012/7/3 The Standard紙

連絡手段の確立

情報収集手段

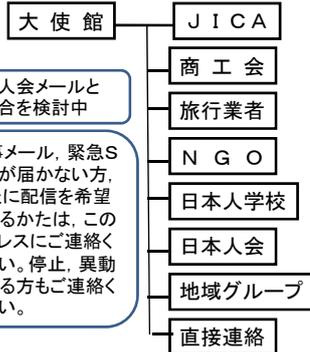
- メディア: ニュース, 新聞, インターネット
- ホームページ
・ <http://www.ke.emb-japan.go.jp/j-index.html>
- 領事メール(ケニア全域), スポット情報
・ ryouji@eojkenya.org

在留届

- 緊急SMS(ケニア全域) - (全員に届くまで時間かかる)
英数字160字以内 文頭は「(taisikan)」
ローマ字表記(邦人以外に届いた場合のため)
・ 0722-514092(長峰)
・ 0722-514098(小野)
- 緊急連絡網による伝達(右図)

緊急SMS; (現在) 在留届筆頭者+婦人部+希望者
領事メール; (現在) 在留届筆頭者+希望者

緊急連絡網(要検討)



日本人会メールとの統合を検討中

領事メール, 緊急SMSが届かない方, 新たに配信を希望されるかたは, このアドレスにご連絡ください。停止, 異動される方もご連絡ください。

伝達手段の再点検

連絡体制(双方向)確立にご協力(ご意見)お願いします。

- 緊急連絡網の整備: アップデート
- 携帯電話のチェック: バッテリーのフル充電, 肌身離さず
- 無線機の導入検討: 大使館に相談を

着意点

2012・13年選挙に備えた準備

- ・スーパー等の閉鎖に備えて、事前に食料その他の備蓄
 - 人数×10日分
 - 非常食(シリアル), 米, インスタント食品, 飲料水, 菓子, お酒?
 - 目安(一人1日分): シリアル300g, 水3L, 缶詰(肉・魚又はフルーツ)1個
 - 細部はホームページ, 安全情報のページ「暴動に備えて」を参照
- ・トイレトペーパー等衛生品, 医薬品
- ・国外へ移動等を考慮し, (ナイロビにて)お金(ドル), パスポート等準備

職場・学校
も忘れずに

柔軟な対応をとる準備

- 大規模デモ実施日, 暴動が予想される際は,
- 最小限の出勤者, 自宅勤務, 自宅待機, 休暇
 - 休校, 自宅学習, 早退
- が可能な事前の業務・授業計画と調整を
選挙時期を避けた会議開催, 地方出張, 海外からの出張者の受け入れ等の事前の計画

直前の準備

- ・自宅待機態勢の検討
- ・暴動の起こりそうな地域からの事前避難
- ・上記以外の地域からも, 道路封鎖, 孤立を考慮して事前避難検討
- ・ホット・スポットの予測は難しい。

着意点

選挙運動全般の心がけ

- ・情報の入手(メディア, 大使館, 職場, スタッフ)
 - 重視すべき情報
 - 選挙の不正, 開票の遅れ, 対立をあおるHate Speech
 - 暴力を使用するグループ(ムンギキ: ギャング集団, MRCモンバサ共和評議会)の動き
- ・危険な場所には近づかない
 - 集会, デモ, 抗議活動などには近づかない。
 - スラム周辺には近づかない。
 - (キベラ: ルオ族主体, マダレ: 各種混在, カワンガレ: ルイヤ, カンゲミ: キクユ)
 - 大学周辺には近づかない。
 - 部族問題・土地問題が内在する地域には近づかない。

治安が悪化しそうな場合

- 暴動に伴う略奪等に備え, 住居のセキュリティを強化。
- グループで集まる場合は, 留守宅のセキュリティも強化